

PCの誤作動には 一旦電源を落として

仕事柄、言葉遣い、特に Politically に Correct であることに神経をすり減らす。

ある方に、「子供」は、「こども」または「子ども」と表記した方がよいと教えてもらった。「供」には、従者として従うという意味があり、子どもが親や大人に従属するものと受け止められ、子どもの人権の尊重につながらないというようなことが、その理由らしい。

実は、これまで「供」は複数を表す言葉だと漠然と思っていた。また、自分の会社のことを指して「手前ども」と言うとき、そこに謙遜の意味を自分なりに込めていた。清水の次郎長親分が、「野郎ども覚悟はいいか！」と子分に言うときには、わずかに愛情さえ感じてしまう。

「子供」という漢字から受ける印象には硬さがあるが、「こども」だと小さく丸っこくて可愛い印象を与えるから、平仮名表記になったのだと説明してくれた人もある。これは、私の感覚によく合う。同じ理由で、男子高校生を「こども」の仲間に入れることには違和感がある。

熊本弁の「あやつどん(あの者たち)」の「どん」が「供」ならアウトなのか？それにしても聞いただけでは「供」が平仮名か漢字か判断できない。目的に対し、手段に工夫の余地ありだ。

子どもの頃、母の日に、母親のいない子は白いカーネーションを胸につける、という変なルールがあった。母親がいなくてプレゼントできない子が存在するのは不平等だから、せめてその子は白い花を、という良い子の発想だった。これなどは、明らかにPCの誤作動である。母の日の本質は、どこかに置き去りにされている。ただ、実際に白い花を胸につけた子はいなかった。そもそも、私が子どものころには、赤い花を贈る子も、ほとんどいなかった。

小学校の運動会では、徒競走の組み合わせ方と、着順で1等、2等と序列をつけるかについて、毎年ホットな議論があるらしい。これもPC問題の一つだろう。学校の先生は、毎年同じ議論を繰り返しているだろうから、さぞかし大変だろう。学力低下の遠因は、このあたりにあるのではないかと思えてくる。教育改革よりも、先生の応援団づくりが先決かもしれない。

ゴールデンウィークという言い方も、休める人には“ゴールデン”だが、そうでない人に配慮してゴールデンと言わないで、というのもあった。今では、大型連休にかつての輝きはない。

「言葉狩りか表現の自由か」というような議論に陥ったら、PCが誤作動をはじめたと判断すべきだ。本質を見失う前に、パソコン同様、一旦電源をOFFにした方がよい。

英和辞典をひいてみたら、politically には「巧妙に」という意味もあるらしい。

“巧妙”に“正しい”言葉の代表選手は、「遺憾」ではないだろうか。自分の申し訳ない気持ちも、相手の非を責める気持ちも、どちらも「遺憾」である。政治家や企業のトップが、記者会見で「遺憾」と言うとき、遺憾ながら言いたいことが伝わってこない。むしろ「謝罪会見なのに大して罪の意識はないような」あるいは「抗議なのに本気で怒ってないような」、その人の立場とは逆の気持ちが強調されて伝わることもある。このような「遺憾の持つ不快な気分」が、テレビを通して世界中に広がっていく。カタカナ言葉の氾濫よりも、「遺憾」の多用の方がよくない。両方とも同じように意味が分からないのであるが、遺憾には不誠実さを感じる。